



**脳科学研究センター・感染症科学研究センター
難治がん TR センター・血管科学 TR センター
医学研究科 4 研究センターを開設しました**

大阪市立大学は、平成 28 年 4 月 1 日に「脳科学研究センター」、「感染症科学研究センター」、「難治がんトランスレーショナルリサーチセンター」、「血管科学トランスレーショナルリサーチセンター」の 4 つの研究センターを本学医学研究科内に開設しました。これら 4 つのセンターは、基礎医科学と臨床医科学とを横断し研究を進め、また、本研究科内のみならず他学科や他施設とも連携を持ち、幅広く研究を行っていくものです。

本学の重点戦略の 1 つである都市科学分野、中でも健康科学領域が掲げるスローガン“笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点”の推進に大いに貢献できると考えています。

4 研究センター発足に伴い、下記のとおり発足式を開催いたします。ぜひこの機会にご取材くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時 平成 28 年 7 月 21 日（木） 16 時 30 分 開始（開場：16 時 10 分～）
- 2 場所 大阪市立大学医学部 阿倍野キャンパス 学舎 6 階 中講義室 2
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1 丁目 4 番 3 号
<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/outline/access.html>
- 3 内容 16：30～16：40 学長あいさつ
16：40～16：50 研究科長あいさつ
16：50～17：05 4 センター長あいさつ
17：05～17：15 写真撮影
17：15～17：35 質疑応答

発足式終了後（17：40～）、脳科学研究センター・感染症科学研究センターの合同研究セミナーを開催いたします。4 研究センターのうち、脳科学と感染症科学の 2 研究センターが各々の研究内容を発表し、今後のセンターの方向性について討論を行います。

【脳科学研究セミナー（17：40～18：20）】

発表予定者： 井上 幸紀（大阪市立大学 神経精神医学 教授）
加藤 祐一（大阪市立大学 医薬品・食品効能評価学 教授）
伊藤 義彰（大阪市立大学 神経内科学 教授）
大畑 建治（大阪市立大学 脳神経外科学 教授）

【感染症科学研究セミナー（18：20～19：00）】

発表予定者： 田守 昭博（大阪市立大学 肝胆膵病態内科学 准教授）
掛屋 弘（大阪市立大学 臨床感染制御学 教授）
松本 健二（大阪市健康局 感染症対策課 感染症対策監）
金子 明（大阪市立大学 寄生虫学 教授）

■脳科学研究センター（英語名：Center for Brain Sciences (CBS)）

センター長：センター長 大畑 建治（写真）
副センター長 水関 健司



創設・目的：超高齢化社会への具体的な活動実績を求め、社会的要請に応える先駆的組織として創設。認知症疾患研究を中心としながら、様々な脳機能の解明と様々な疾患の病態解明・治療法の確立を目指す。

活動内容：脳神経の解析による認知症・脳卒中・脳梗塞・神経疾患等の病態解明、治療法開発など、各部門で主体的に研究を行いつつ、緊密に連携を取り、高度な研究を進める。

〔主な活動内容〕

- 脳の構造解析、疾患の予防法・治療法開発
- ビッグデータ集積・解明、認知症先端医療の開発
- 医学・医療関連施設との共同研究、社会問題に対する国際的共同研究、一般企業との産学連携
- 教育機関・保健福祉機関との連携による地域医療教育の統合

センター長から一言：認知症データベース部門、神経回路部門、脳画像解析部門、「脳と心」の部門、脳血管部門を融合することにより、認知症の病態解明と新たな治療法の確立を重点研究課題として取り組みます。

■感染症科学研究センター

（英語名：Research for Infectious Disease Sciences (RCIDS) Center）

センター長：センター長 金子 明（写真）
副センター長 掛屋 弘



創設・目的：都市部における感染症の脅威が高まる中、西日本の感染症拠点となるべくセンターを創設。地域や地球規模で課題に取り組み、都市における感染症対策のモデルとして地域発展・国際化に貢献する。

活動内容：新たな感染症研究を展開し、診断・治療・予防法の開発、都市型感染症への対応と公衆衛生の向上、国際的連携によるグローバルヘルスへの貢献、人材育成を行う。

〔主な活動内容〕

- 感染症病態の解明、感染症に関する創薬研究・疫学研究
- 感染症診断・治療・予防法の確立
- 公衆衛生向上に向けた医療機関・行政連携、診断・治療・予防法開発に向けた産学官連携、学際連携による人材育成

センター長から一言：今般、海外との活発な交流に伴い、エボラ出血熱、デング熱、ジカ熱など、新たな感染症の脅威を身近に感じるようになってきました。また地球規模での貧困の解消が叫ばれており、結核、マラリア、HIV/AIDSへの対応も引き続き求められています。さらに、伊勢志摩サミットでは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）が新たな目標として取り上げられています。このような状況を鑑み、我々は、学内にとどまらない様々な連携を構築し、大発発として感染症の課題に取り組む所存です。

■難治がんトランスレーショナルリサーチセンター (英語名 : Cancer Center for Translational Research)

センター長 : センター長 鱈淵 英機 (写真)
副センター長 八代 正和



創設・目的 : 癌研究実績を総合的かつ迅速に臨床へ橋渡しする癌領域の先駆的組織として創設。基礎研究により発見された癌の知見について、臨床的意義を評価し、予防・診断・治療等の医療に実現化する橋渡し研究の実践を行う。

活動内容 : 基礎研究段階から臨床応用への円滑な橋渡しを行うのみならず、臨床研究で得られた材料や知見を基礎研究に還元し、大阪市立大学における癌最先端研究の一層の発展を担う。

[主な活動内容]

- 発癌メカニズムの解析・分析、癌予防物質開発、治療法研究
- 治療法の実用化、検体組織集積・データベース化、診断時指標の探索
- 情報共有・癌治療における臓器横断的連携、臨床実用化に向けた産学連携
- 基礎医学・臨床研究に卓越した研究者の育成

センター長 : 大阪市立大学医学部各研究室・診療科で蓄積されてきたがん研究の基礎的な知見、解析技術さらには研究試料を共有し、統合的に、臓器横断的に橋渡しする研究を推進することを目指しています。臨床各科の若手研究者の研究支援・指導を積極的に応援してまいります。

■血管科学トランスレーショナルリサーチセンター (英語名 : Vascular Science Center for Translational Research)

センター長 : センター長 稲葉 雅章 (写真)
副センター長 庄司 哲雄



創設と目的 : 血管科学を軸として基礎研究と臨床研究を臓器横断的に結集し、多臓器間情報ネットワークの観点から、血管病の解明と新しい治療法を創出する組織として創設。基礎研究、臨床研究、次世代の研究者の育成を行う。

活動内容 : 基礎研究と臨床研究を有機的に双方向的に融合させ、血管病の病態解明、診断・治療に関するバイオマーカー探索、新規予防・治療法の開発、再生医療や人工臓器などの開発などを行う。

[主な活動内容]

- 血管病(動脈硬化など)の病態解明、診断指標・治療法の開発
- 臓器異常による血管病発症の解明、新規治療の臨床応用
- 血管病と臓器病態の因果関係を明らかにする専門分野横断的連携、バイオバンク構築のための関連病院ネットワーク構築
- 臨床医への研究支援、基礎研究者と臨床の橋渡し

センター長 : 重点研究課題として「血管石灰化」を取り上げ、基礎研究から新規診断法、治療法開発を目指しています。

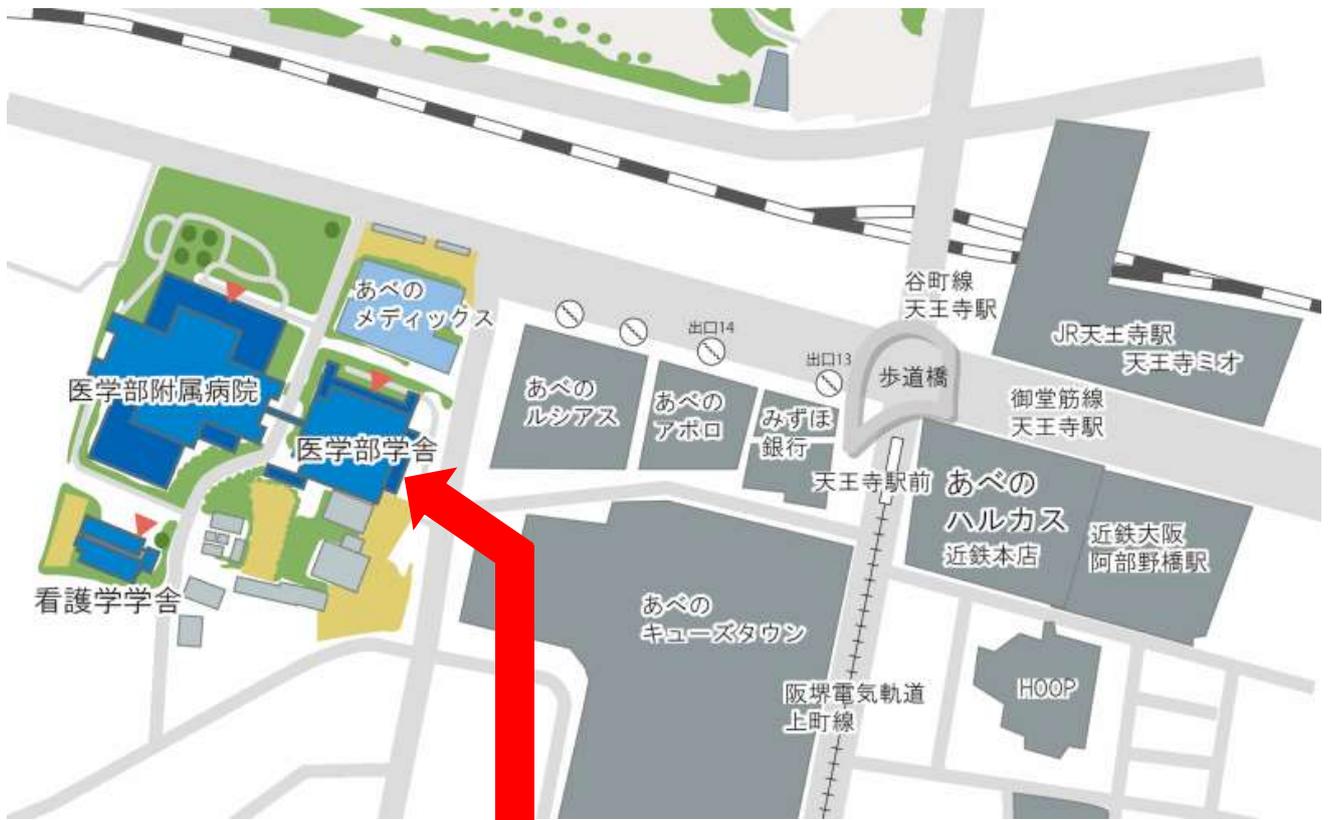
【ご取材について】

ご取材をご希望の方は、阿倍野キャンパスの会場へ直接お越しください。ご入構いただく際は、地下一階の『防災センター』にて受付をお済ませいただき、入構許可証をご携帯のうえ、エレベーターで6階の中講義室2までお越しいただきますようお願い申し上げます。

テレビカメラをお持ち込みいただく場合は、お手数ではございますが、7月20日（水）の17時までに広報室（TEL：06-6605-3411）宛に事前のご連絡をお願いいたします。

【お願い】

- ・当日、受付にてお名刺を頂戴しますので、ご用意をお願いします。
- ・駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。



こちらに地下の入り口があります。

【本件に関するお問合せ先】

大阪市立大学 医学部附属病院運営本部
庶務課 人事担当：浜本
TEL：06-6645-2721
E-mail：kjinji@med.osaka-cu.ac.jp

【ご取材に関するお問合せ先】

大阪市立大学 広報室 担当：竹谷
TEL：06-6605-3410 FAX：06-6605-3572
E-mail：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp